


ピーシープロ・サポート
未来はパーソナルへ



高齢者とお薬手帳

現状のさらなる改善を

2016.6.28

ピーシープロ・サポート



1.背景

患者の薬歴管理は、医療機関の個別の管理から、試行錯誤の状態を経て、現在の紙媒体でのお薬手帳に一旦落ち着いたかのように拝見します。

特に高齢者の医療を考えた場合、スマホ等での電子媒体での管理を否定せざる負えない状況も伺え、医療業界のスタンダードとして、しばらく紙媒体のお薬手帳のさらなる充実が望まれるのでは、と思われまます。




2.医療機関でのお薬手帳の活用実態

これは個人的に実際に医療機関にかかり、事前にお薬手帳を提示しましたが、医療機関では下記のような問題が発生致しました。

- ①胃潰瘍で治療中に、整形外科にて傷み止めのお薬が処方されました。
薬局で胃潰瘍の薬を服用している事をお話したところ、処方箋から外されました。
- ②時間の都合でたまたま近くの薬局で処方箋を提出しましたが、これまで服用していたお薬の在庫があるにも関わらず、一般名処方にて別の医薬品が処方されました。
(先発/後発品が問題ではなく、高齢者になると色・形状が異なる事が大きな問題となります)

上記内容にて、医療機関でお薬手帳が活用されていない実態が浮き彫りになっています。



3.活用できにくい要因

現在のお薬手帳は、処方日順に投薬内容を貼っていくスタイルです。

患者の投薬歴としては充分ですが、
複数の医療機関にかかっている場合、
さらに処方時期やタイミング(月、週、日)によって、
現時点で患者が投薬しているお薬を短時間で把握するのが、大変困難です。

その結果が誤解や見落としを招く状態にあります。

患者の投薬歴=患者が現在投薬している内容 ではないのです。



4.改善の前書き

本来、人間が起こすミスは0%にする事は不可能です。

但し、いろいろな方法でミスを少なくする努力は未来永劫続きます。

今回の件は、かかりつけ薬局を利用する事で、もしかしたら前述した問題は起こらなかったかもしれません。

ただ高齢者の医療を考えた場合、必ず家族のサポートが重要となり、家族にも仕事や用事があり、必ずしもかかりつけ薬局を利用できないという状況にならないのが、実際の現状でございます。

また独居老人が緊急に医療機関にかかる場合、お薬手帳だけで現在服薬している薬を把握するのは、極めて困難な状態である事も伺えます。



5.改善案


改善案は以外に簡単簡潔です。
お薬手帳に二つの顔を持たせる事です。

一つは現状のような患者の投薬歴の蓄積であり、
もう一つは、現在患者が服薬している薬品を別枠で管理する事にあります。
これにより、現在服薬しているお薬と医療機関が容易に把握できます。

お薬手帳は現状のままのサイズ形式で、新たにお薬手帳のクリアカバーを作成して、
クリアポケットを3枚ほど準備します。

後は薬局にて投薬歴と同時にクリアポケットに台紙に貼った投薬シールをセットすれば完了です。
もちろん投薬が終了すれば患者が台紙を取除く必要がありますが、
薬局で毎回チェックする事も可能になります。

次頁にて図説致します。



患者の投薬歴簿

クリアカバー

ピーシープロ・サポート
未来はパーソナルへ

専用の台紙

おくすり手帳



従来のお薬手帳

処方日 2016年5月16日
調剤日 2016年5月16日

〇〇耳鼻咽喉科

チラーヂンS錠 1錠/日
甲状腺を改善する薬

14日分

いちご調剤薬局 TEL 00-000-0000

投薬内容シール

処方日 2016年5月10日
調剤日 2016年5月10日

〇〇内科クリニック

ドラマミン錠 (1日) 3C
【鎮量剤】

14日分

バッファリン (1回) 150 ml
頭痛時にお飲み下さい。

5回分

さくら薬局 TEL 00-000-0000

クリアカバー
付属の
クリアシート

患者の現在の投薬内容

重要なまとめ

重要な事は、
新たにクリアファイルを作成する事ではなく、
現在お薬手帳を投薬歴から、
現在投薬しているお薬を明確化する為のルールやモデルを作り、
標準化する事です。

高齢者の医療や福祉の問題は、止まってくれません。



以上

たとえ小さな事でも、
考え行動する事で、次の問題が
見えてくると思っております。

高齢者医療社会を向かえるにあたり、
少しでも前に進む重要性を深く思います。
ありがとうございました。

